

# 留学生・異文化に対する日本人大学生のイメージ

吉 川 茂

## I 問題

近年ますます拡大する国際交流のなかでの日本人についての関心は、日本人が外国の企業、学校、地域において体験する適応度の問題や、海外帰国子女にみられるような帰国後の日本での適応の問題が中心となっている。また、海外から仕事や勉学を目的に来日した外国人のカルチャー・ショックの問題も多く取上げられている。

しかしながら交流とは文字通り、相互的な関係によって成立するものであり、例えば外国からの留学生の日本人学生とのよりよい適応関係というのは、同時に日本人学生の留学生とのよりよい適応関係を意味すべきはずである。

筆者の所属する私立4年制のH大学は商学部、経済学部の2学部があり、在籍者数は5000名程度である。留学生は全体で30数名とけっして多くはないが、4年前より毎年数名の留学生を迎え入れている。(92年度入学者5名、93年度7名、94年度11名、95年度14名)すべてアジアの国々からの留学生が大多数を占めている。しかしながら、筆者が体験的に知る限りでは、大学内における留学生と日本人学生との交流は低調、不活発なようである。留学生の絶対数が少ないこともこの一因であると考えられる。また留学生が日本や日本人、H大学やその大学生をどのように認知しているのかといった側面からのアプローチも必要であろう。しかしこの問題を相互関係として考えるならば、日本人学生が留学生についてどのように感じ、考えている

のかという視点も重要になってくる。こうした問題意識に沿って、日本人大学生が自らの大学の留学生をいかに認知しているか調査することを目的としたい。これと関連して異文化へのイメージも調べてみたい。

## II 方法

大阪府下にある私立H大学の学生31名(1年生16名、2年生15名)を対象とする。留学生や異文化に関連した概念についてSD法的調査をそれぞれの講義時間に集団で実施した。調査した内容はつぎの16項目である。

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| ●現在の自分         | ●理想の自分          |
| ●現在のH大学        | ●理想のH大生         |
| ●現在の留学生        | ●理想の留学生         |
| ●友達とのコミュニケーション | ●留学生とのコミュニケーション |
| ●海外旅行          | ●海外留学           |
| ●日本人           | ●外国人            |
| ●国際交流          | ●異文化            |
| ●日本語           | ●外国語            |

特別な正答はなく主観的な回答でよいことを伝え、7ポイント・スケールとして回答を求めた。

## III 結果と考察

16項目それぞれについて、「1. 明るい—暗い」から「15. 幻想的な—現実的な」までの15尺度について平均と標準偏差を算出し、Table 1にそれを示した。さらに比較検討すべき2項目を

Table.1 各尺度ごとへの回答の平均と標準偏差

	「現在の自分」		「理想の自分」		「現在のH大生」		「理想のH大生」		「海外旅行」		「海外留学」		「日本人」		「外国人」	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
1. 明るい	4.87	1.565	6.03	0.983	4.35	1.305	6.26	0.773	5.55	1.362	5.48	1.235	4.26	1.527	6.26	0.815
2. 深みのある	4.32	1.400	5.90	1.193	3.06	1.365	5.81	1.046	5.19	1.621	5.55	1.588	3.97	1.683	4.48	2.096
3. わかりにくい	4.03	1.760	2.71	1.697	3.71	1.510	2.45	1.457	4.45	1.567	4.74	1.505	4.61	1.838	4.06	2.048
4. 新しい	4.45	1.179	5.61	1.145	4.16	1.036	5.94	1.237	5.65	1.539	5.45	1.362	4.00	1.807	5.58	1.259
5. 大きい	3.97	1.494	5.87	1.384	3.32	1.194	5.87	1.088	5.65	1.253	5.52	1.363	3.03	1.560	6.16	0.898
6. 複雑な	3.97	2.121	3.19	1.558	3.29	0.973	3.45	1.630	4.06	1.948	5.19	1.447	4.84	1.695	3.48	1.895
7. 楽しい	4.65	1.473	6.35	0.839	4.03	1.378	6.42	0.720	6.10	1.136	5.39	1.283	4.10	1.720	5.94	1.124
8. 強い	3.81	1.682	5.90	1.248	3.68	0.791	5.52	1.525	5.13	1.310	4.97	1.494	3.29	1.657	6.00	0.966
9. 特色のある	4.55	1.786	6.19	1.014	3.23	1.359	5.87	1.176	5.55	1.567	5.77	1.203	3.52	2.096	6.16	0.969
10. 派手な	3.81	1.327	4.52	1.363	3.58	1.409	5.45	1.207	5.48	1.151	4.94	1.436	3.39	1.706	5.81	1.195
11. 広い	4.35	1.518	6.13	0.991	2.97	1.354	6.10	0.944	5.77	1.283	5.42	1.361	3.00	1.693	6.16	1.068
12. 親しみにくい	3.48	1.610	1.87	1.586	3.45	1.609	1.68	0.832	3.35	1.704	3.58	1.669	3.97	1.741	3.52	1.981
13. しゃれた	3.97	1.278	5.71	1.270	3.77	1.606	5.81	1.195	5.71	1.270	5.39	1.230	4.03	1.703	5.55	1.121
14. 安定な	4.06	1.769	6.19	1.046	3.74	1.032	6.00	1.000	4.65	1.817	3.87	1.708	4.45	1.912	3.90	1.557
15. 幻想的な	3.90	1.921	4.00	1.915	3.65	1.330	4.23	1.707	5.10	1.795	4.16	1.899	3.19	2.072	4.48	1.913
	「現在の留学生」		「理想の留学生」		「友達とのコミュニケーション」		「留学生とのコミュニケーション」		「国際交流」		「異文化」		「日本語」		「外国語」	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
1. 明るい	3.94	0.929	6.13	1.056	5.68	0.979	4.00	1.549	4.84	1.530	4.55	1.312	4.94	1.413	5.58	1.119
2. 深みのある	4.45	0.925	5.58	1.232	5.13	1.455	3.97	1.449	5.10	1.660	6.19	0.910	6.03	1.140	5.23	1.454
3. わかりにくい	5.00	1.211	2.16	1.186	2.77	1.521	4.29	1.736	5.19	1.600	5.58	1.089	5.23	2.140	5.87	1.284
4. 新しい	3.81	1.080	5.68	1.137	5.06	1.289	4.26	1.340	5.29	1.575	4.06	1.879	4.06	2.060	5.45	1.387
5. 大きい	4.03	0.657	5.26	1.237	5.06	1.340	4.06	1.389	4.65	1.780	5.35	1.253	4.58	1.858	5.65	1.330
6. 複雑な	4.65	0.950	3.13	1.384	3.32	1.514	4.29	1.553	5.19	1.447	5.84	1.003	5.65	1.942	5.52	1.671
7. 楽しい	3.81	0.792	6.26	0.815	5.87	1.147	4.10	1.469	4.74	1.788	4.77	1.521	5.10	1.491	4.16	1.753
8. 強い	4.06	0.680	5.45	1.234	5.19	1.302	4.13	1.360	4.94	1.365	5.13	1.477	4.52	1.630	5.26	1.182
9. 特色のある	4.13	1.118	5.87	1.056	5.19	1.815	4.10	1.513	5.23	1.627	6.26	1.125	6.16	0.898	5.90	1.106
10. 派手な	3.61	1.174	4.81	1.014	4.81	1.400	3.84	1.463	4.81	1.470	4.55	1.524	3.94	1.750	5.16	1.393
11. 広い	4.03	1.140	5.61	1.174	5.13	1.708	4.26	1.290	5.06	1.843	5.35	1.496	5.06	1.750	5.68	1.249
12. 親しみにくい	4.81	1.302	1.77	0.956	1.97	1.110	4.16	1.614	4.26	1.612	4.39	1.334	3.39	1.995	5.52	1.480
13. しゃれた	3.94	0.680	5.58	1.148	4.61	1.358	4.03	1.197	4.45	1.434	4.61	1.358	4.06	1.692	5.23	1.477
14. 安定な	3.94	0.814	5.42	1.205	5.23	1.383	4.10	1.221	4.03	1.602	3.84	1.551	4.16	1.864	4.23	1.687
15. 幻想的な	3.61	0.919	4.16	1.463	3.52	1.651	3.84	1.068	3.65	1.762	5.58	1.501	3.26	1.527	3.84	1.772

抽出し、図示したものが Fig.1 から Fig.13である。これら図の右側の数字は、2項目間の各尺度への回答の $\chi^2$ 検定の結果の数値である。いずれも  $df = 1$  であり、有意水準の表示は、†:  $p < .10$ , \*:  $p < .05$ , \*\*:  $p < .01$ , \*\*\*:  $p < .001$ である。留学生および異文化を中心として他の項目との比較を順に検討する。

(1) 「現在の留学生」と「現在の自分」

Fig.1 にみられるとおり、現在の留学生についてのイメージと現在の自分についてのイメー

ジとに大きな隔たりは見出せない。しかしこの結果はH大生が自己と留学生を近似したものととしてイメージしていると解釈することは適切ではない。「現在の留学生」についての回答のSDは最高で1.302であり、大部分が1.00以下である。一方「現在の自分」についてのSDは最高の2.121をはじめとして全体に大きい数値を示している。自分イメージの多彩さが平均されて Fig.1 の結果となったのであり、「現在の留学生」のいくぶん画一化されたイメージとは異なっている。

「現在の留学生」のイメージが中央の「どちらともいえない」近辺に集中した現象は、H大生が留学生と接触、交流する機会・経験が乏しいために評価できるだけの主観的基準がまだ形成されていないためであろうと推測される。そうした乏しい情報量のなかで留学生に対してどのようなイメージがもたれているか、もうすこし細かく検討すると、大きい有意差の認められた「わかりにくい」「親しみにくい」が特徴的である。「暗い」は自己との相対的比較によるものであり、絶対的な評価にはなっていない。

(2) 「現在の留学生」と「現在のH大生」

Fig. 2 のとおり、留学生をH大生と比較した場合には、親近感に関する尺度を除いては良好なイメージがもたれている。留学生に対して心理的距離感はあるけれども、その他特性については少なくともネガティブな評価はなされていないといえる。逆の立場から述べればH大生についてのイメージが「うすっぺらな」( $\chi^2 = 20.040, p < .001$ ), 「単純な」( $\chi^2 = 11.777, p < .001$ ) という2尺度に顕著に示され、自らの大学の学生について悪い印象を抱いているよ

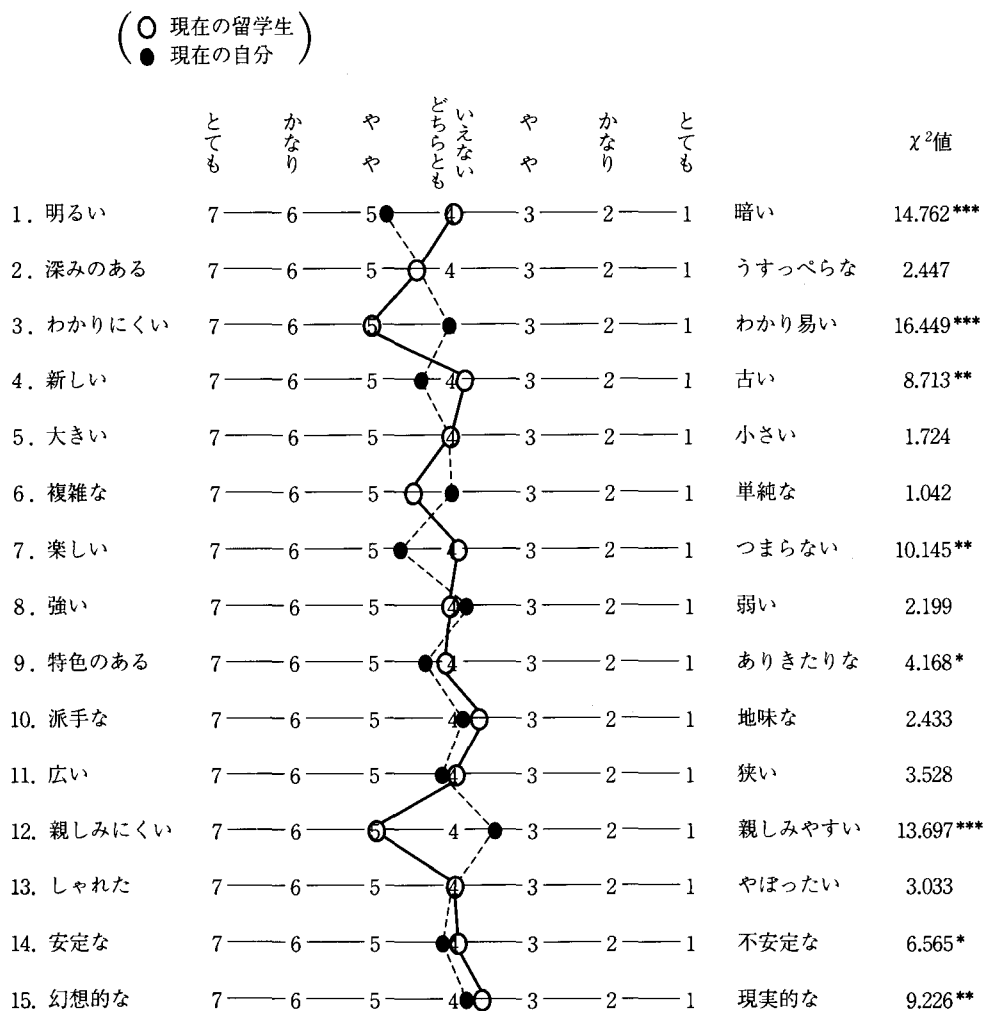


Fig.1 「現在の留学生」と「現在の自分」についてのイメージの比較

うにも思われる。しかしながら、同時に「明るい」「親しみやすい」「わかり易い」という評価もなされていることから、「うすっぺらな」「単純な」とは、人格の未熟・未分化を意味するのではなく、むしろ自分と距離のない、内面にまでよく通じあっている、気楽につきあえるという感覚を反映したものと理解すべきであろう。

(3) 「現在の留学生」と「外国人」

留学生はもちろん外国人であるからかなり近似したイメージが得られることが予想された

が、結果は Fig. 3 のようにイメージ間の違いは顕著なものとなった。外国人のイメージは、強大で陽気な存在として映っているようである。これは外国人のイメージが映画スターやプロ・スポーツの選手、有名な政治家などを基盤として形成されてきたためではないかと考えられる。あわせて英語圏の人間という感覚も含まれているであろう。

一方、留学生は心理的距離はあるといっても、同じ大学に在籍して学内で出会うという点では身近な存在である。さらに中国やアジアの国々

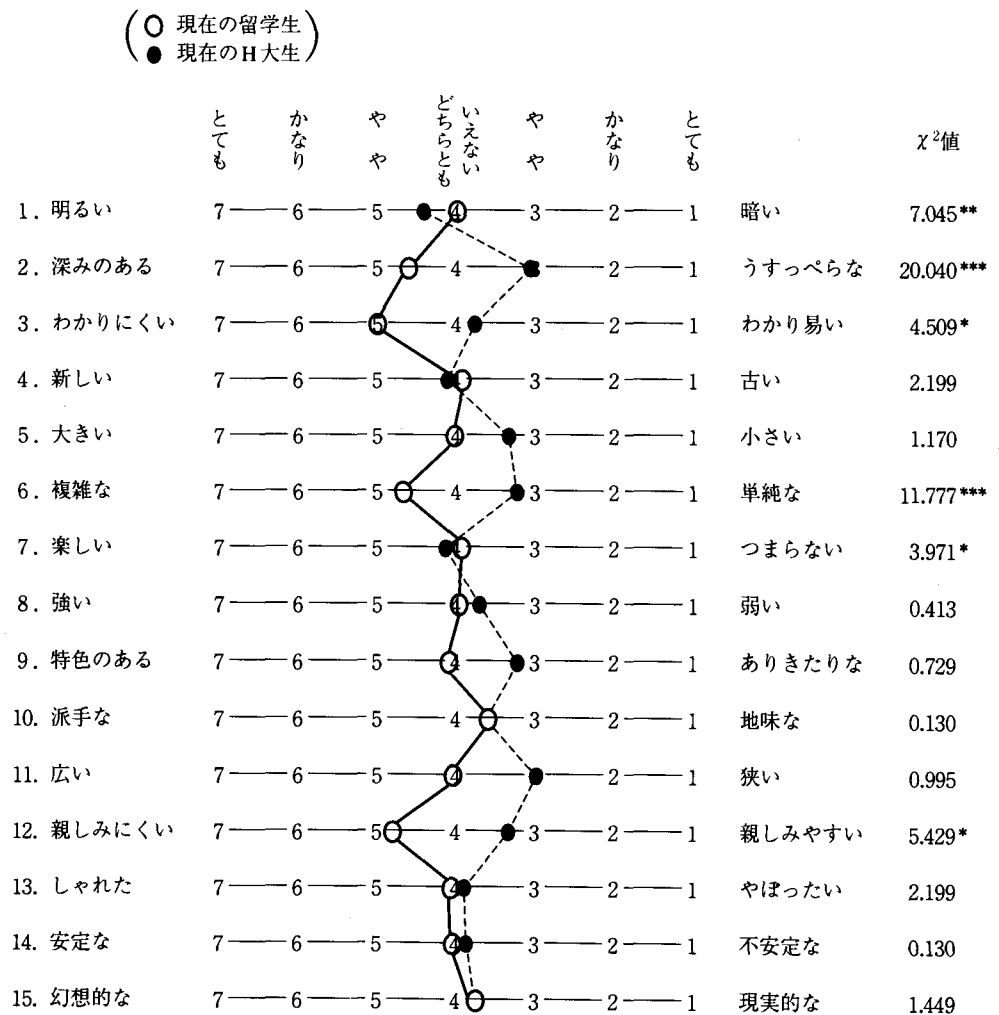


Fig.2 「現在の留学生」と「現在のH大生」についてのイメージの比較

からの留学生であるため、米を主食とし、漢字を使用し、地理的にもそう遠くないということなどから、一般的なイメージとしての外国人とは明瞭に区別してイメージされたと解釈される。

(4) 「現在の留学生」と「理想の留学生」

現実と理想との間にギャップが生じるのは通例であるが、Fig. 4 のとおり現在の留学生と理想の留学生との間にも相当大きい隔たりが認められた。0.1%レベルの有意差が12尺度で示さ

れた。理想の留学生像は、明るく、深みがあり、強く、特色があるという人間一般の理想象と、親しみやすく、わかりやすく、楽しいという同大学の仲間としての理想象との2つの側面から構成されていると考えられよう。現状と理想との隔たりが大きい分だけ今の留学生に寄せる期待、願望が大きいとみることができる。

(5) 「理想の留学生」と「理想の自分」

Fig. 5 にみられるように理想の留学生と理想の自分とのイメージは重なるところが多い。留

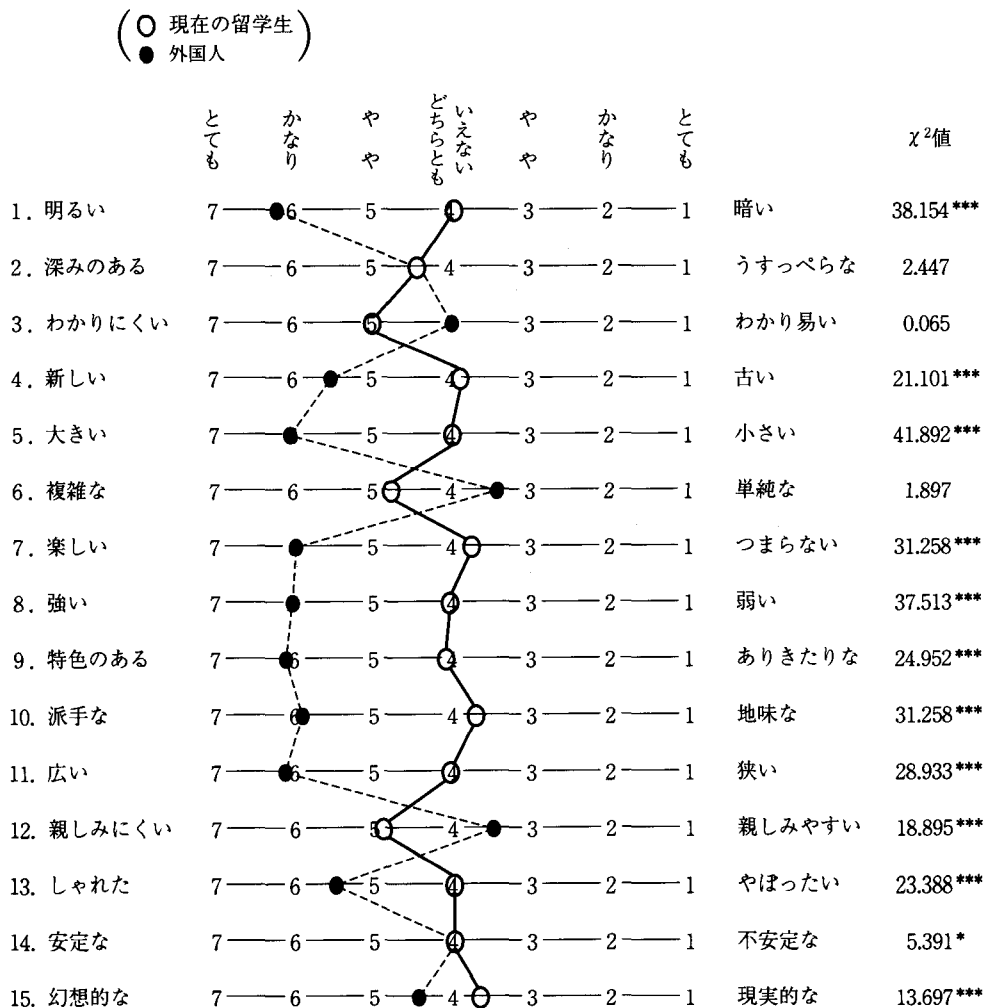


Fig.3 「現在の留学生」と「外国人」についてのイメージの比較

学生と自分に関して共通した一定の理想像が存在することがわかる。理想像について検討すると、中央から両方向へ1ポイント以上離れている尺度（3以下、5以上）が15のうち12を占めている。これらは単純にその特徴の方向へ接近することが理想に近づくことである。例えば、より明るいこと、より楽しいことが望まれているのである。しかし「複雑な—単純な」「派手な—地味な」「幻想的な—現実的な」については理想の方向性は明確に規定しがたい。SDの値も比較的大きい。これら3尺度についてはや

や中立的なポイントが理想とみなされているようであるが、個人差の大きい部分となっている。

(6) 「理想の留学生」と「理想のH大生」

Fig. 6はFig. 5と同様のパターンを表わしており、やはり理想像の一致に留学生とH大生との間にも認められたことになる。現在の留学生と現在のH大生とのイメージの比較ではいくらかの差異が生じていたが、理想については差異は縮小あるいは消失している。今回回答を求めた15の尺度においては、留学生に望むこととH

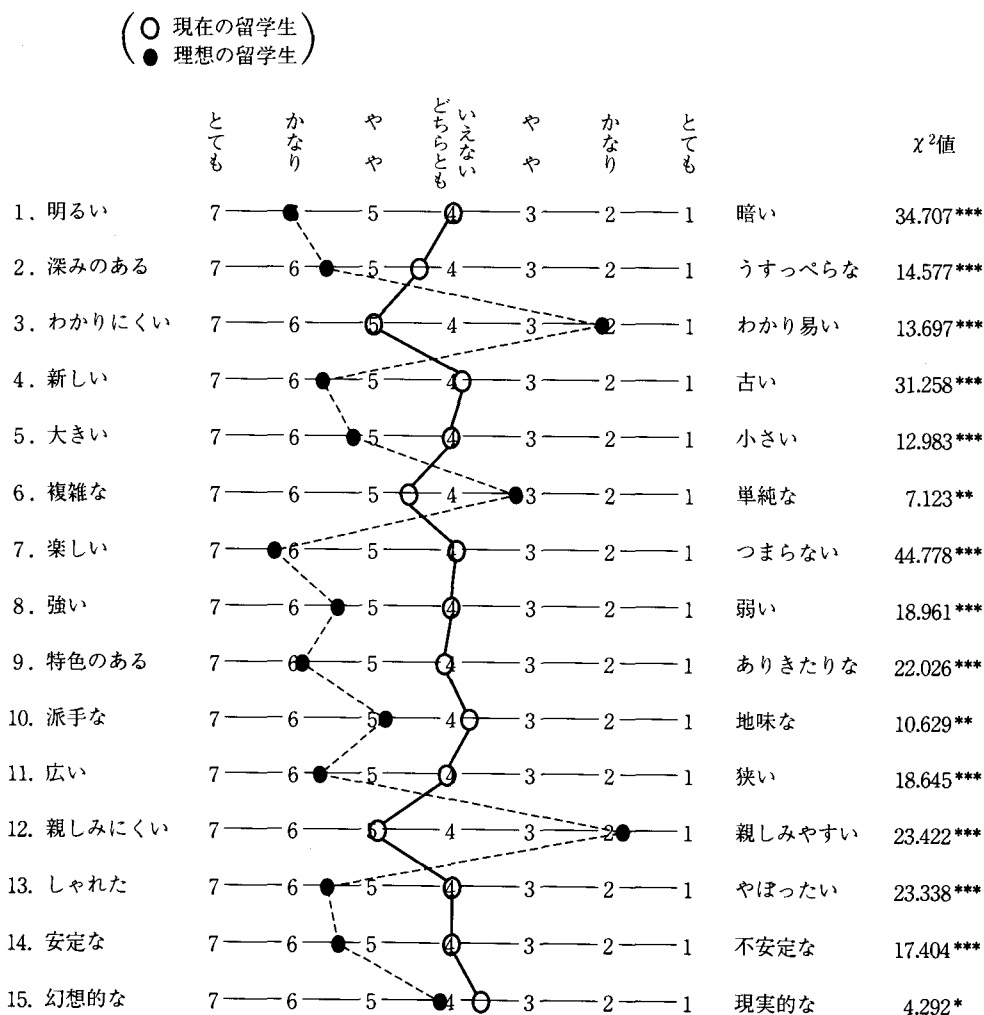


Fig. 4 「現在の留学生」と「理想の留学生」についてのイメージの比較

大生に望むこととは概ね一致しており、留学生であるからという理由で特殊な傾向を彼らに求めようとはしていないようである。

(7)「留学生とのコミュニケーション」と「友達とのコミュニケーション」

この比較を含めてこれからの4つの比較は留学生や異文化についてのイメージを考察するうえでの補助あるいは参考としてのものである。Fig. 7は留学生、友達を対象としたコミュニケーションのイメージについての比較である。

留学生とのコミュニケーションについての回答はたいそう中央に集中した単調な線を示している。しかしSDは1.5前後の数値をとるものが多く、けっして小さくはない。すなわち回答態度に2つのタイプがあったためである。1つのタイプは中央のポイントである4のみを固執的に選択するタイプであり、8名がこのタイプに該当した。もう1つのタイプは両極選択への偏好がみられるタイプでおよそ8名程度がこのタイプに含まれるとみなしうる。留学生との実際のコミュニケーション体験のきわめて乏しいこ

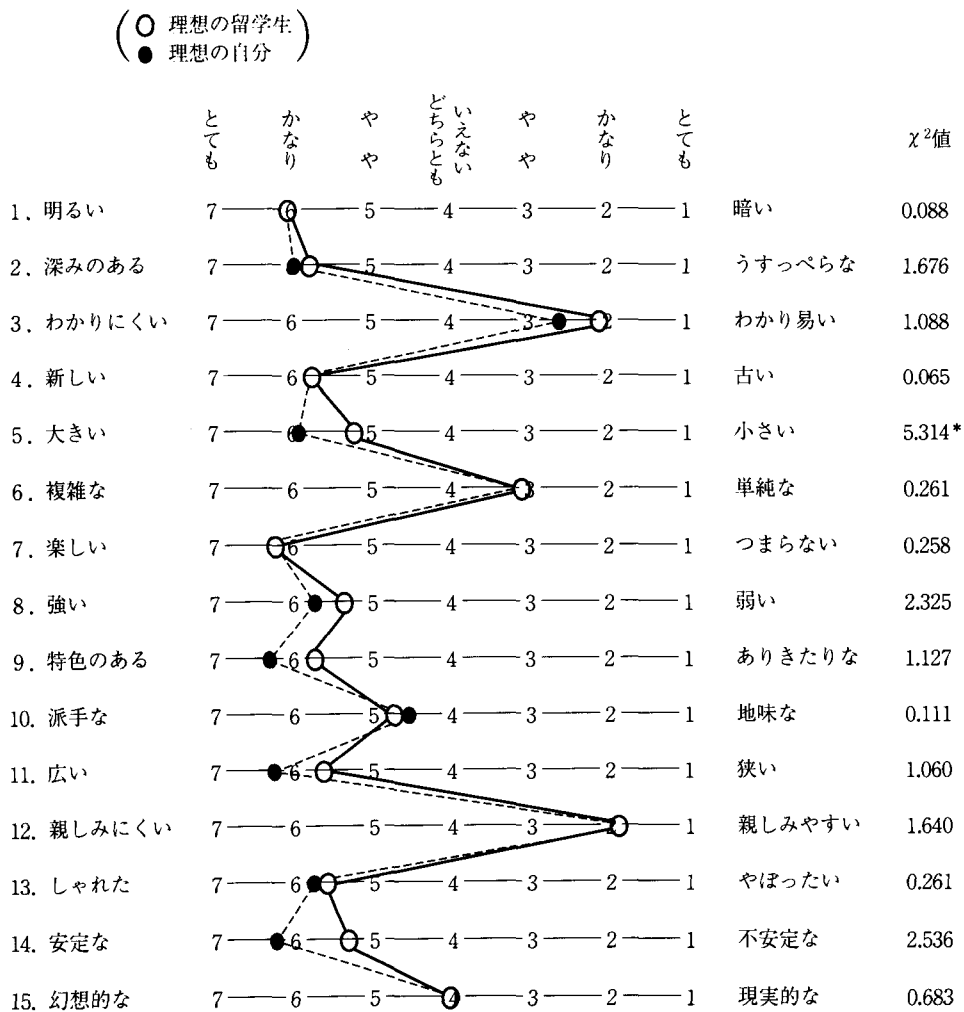


Fig.5 「理想の留学生」と「理想の自分」についてのイメージの比較

とが、一方ではよくわからないのでどちらともいえないという消極逃避的な回答態度を生み、また一方ではコミュニケーションがあったとすればこうであろうという仮定や、こうあってほしいという願望に基づく回答態度を生じさせたのではないかと推測される。

ともかく、友達とのコミュニケーションとはまったく異なっており、H大学生の留学生とのコミュニケーションが今後活発に自然に行なわれるようになれば、このイメージのパターンにも変化が表われてくるであろう。

(8) 「海外留学」と「海外旅行」

Fig. 8 に示される海外留学と海外旅行のイメージの差はたいへん小さい。留学について期間や目的を具体的に呈示しなかったために、観光旅行も含めた短期間の海外研修が想定されたのかもしれない。実際にH大学では夏季休暇中に20日間ほどの海外語学研修が実施されている。ともあれ、海外留学にせよ海外旅行にせよ、負担や困難は感じられていないようである。

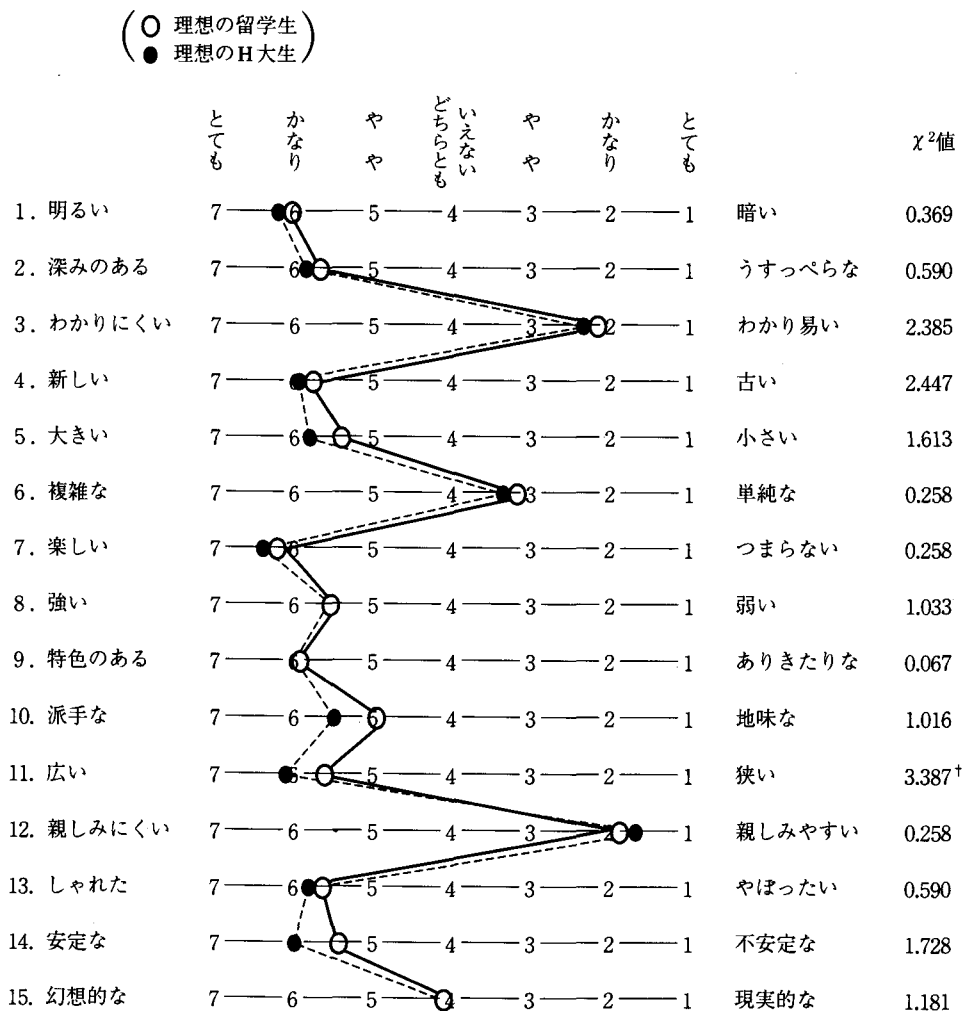


Fig.6 「理想の留学生」と「理想のH大生」についてのイメージの比較



(9) 「外国人」と「日本人」

外国人のイメージについてはさきにFig. 3で触れたが、Fig. 9では日本人との比較を試みたい。異文化観は相手国・地域の正確で詳細な客観的知識を材料として形成されるものではない。きわめて断片的かつ操作的な情報によって形作られる。このことは外国人観についても、実際に多くの外国人との交流体験がない現状においては十分あてはまるであろう。日本人と外国人のパーソナリティや行動様式が現実にはどれほど異なるのかを正確に比較することは難し

いが、おそらく Fig. 9 に示されるほどの大きなちがいはありえないと思われる。日本人については消極安定的なイメージとして示されている。

(10) 「外国語」と「日本語」

外国語と日本語とのイメージの差は、外国人と日本人とのイメージの差よりは小さいという結果が Fig. 10 にみられる。外国語学習の苦勞の反映と考えられる「親しみにくい」という評価が顕著である。同様に相対的に「つまらない」

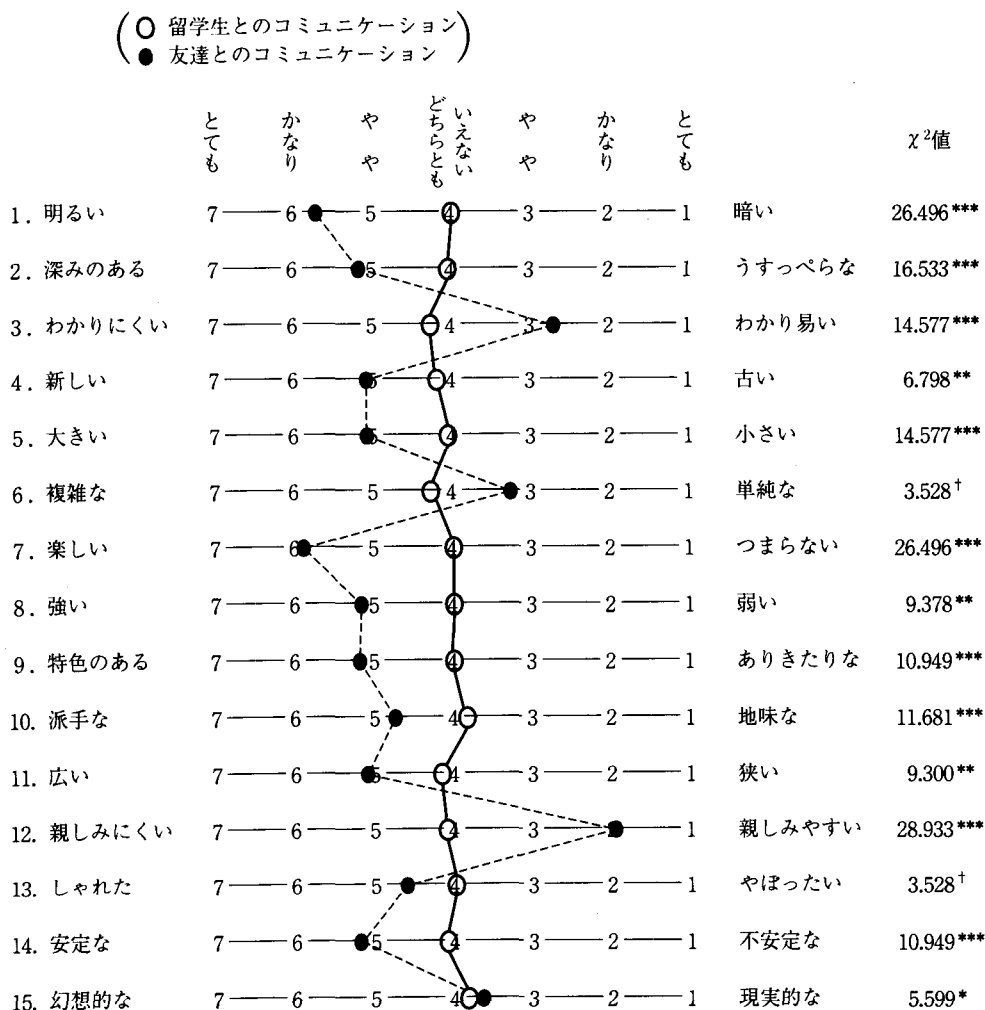


Fig.7 「留学生とのコミュニケーション」と「友達とのコミュニケーション」についてのイメージの比較

という評価も与えられている。一方日本語については「深みのある」「特色のある」「親しみやすい」「古い」といったイメージが強調されており、今回は調査していないが「日本文化」のイメージと近似するのではないかと予想される。国民についてのイメージとその国の言語についてのイメージが異なる結果が得られたことにより、その国のイメージを代表して端的に示すものは何であるのかという興味が喚起される。

(11) 「異文化」と「現在の留学生」

Fig.11にはいくぶん隔った概念と思われる異文化と現在の留学生とのイメージ比較が描かれている。抽象的な概念としての異文化と具体的な存在としての留学生であるためか、多くの点で有意差が認められた。しかし留学生との交流が十分にあれば、留学生を通してその国の文化を知り、感じるができるであろうと考えられたが、調査結果にはその徴候を見出すことはできなかった。

つぎに異文化そのもののイメージについてみ

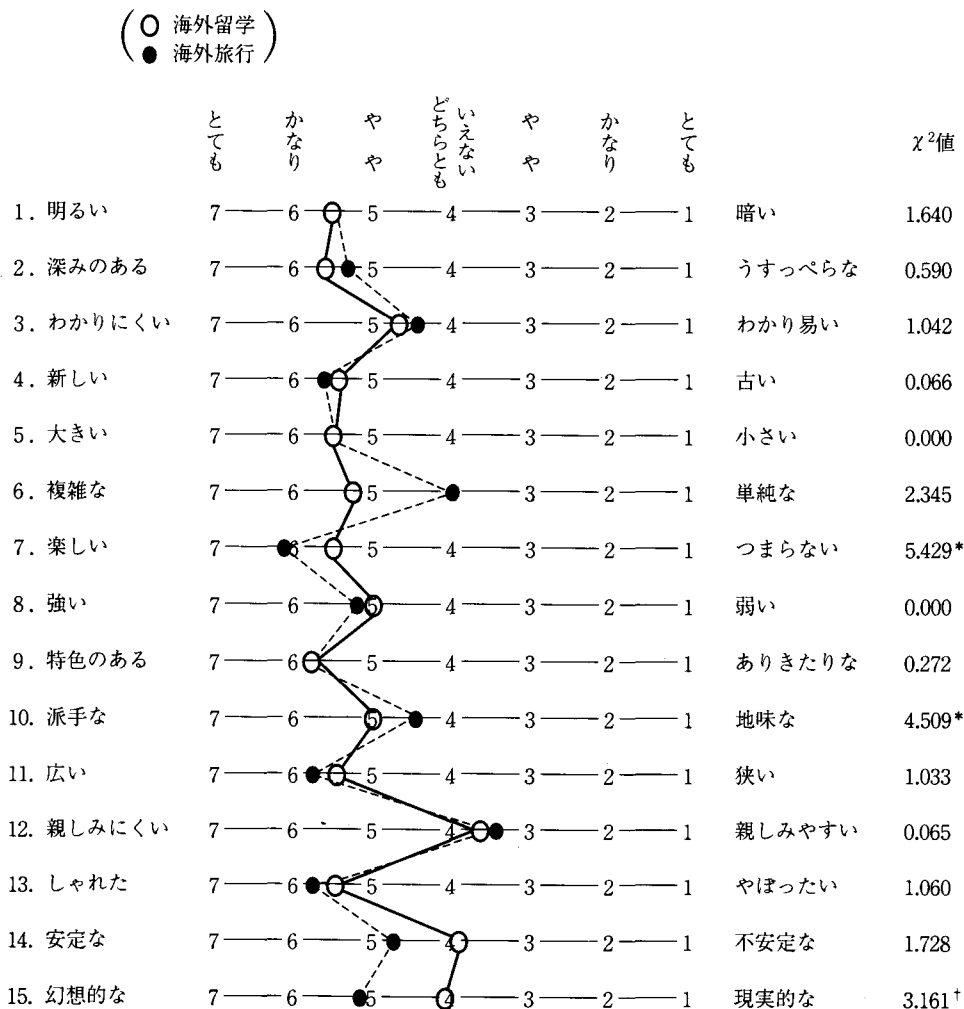


Fig.8 「海外留学」と「海外旅行」についてのイメージの比較

ると、「特色のある」「深みのある」「複雑な」「幻想的な」といった傾向が強く、歴史的な文化、地域的な固有性、非現実的な存在といった意味あいが見られ、異文化という言葉に異国情緒という感情を重ねて読みとっていることが示唆される。

(12) 「異文化」と「国際交流」

異文化と国際交流という概念間の距離は相当大きいと考えられるが、Fig. 11の説明であげた異文化イメージの特徴と「新しい-古い」( $\chi^2$

=5.314,  $p < .05$ ) とを除けば、両概念のイメージはかなりよく一致している。異文化について個人が考えるときには、自己(あるいは自国の文化をもつものとしての自己)と外国との関係や差異を意識することが考えられるし、また国際交流について思うときには自国と外国との関係を意識するであろう。こうした自と他との関係性の意識が両概念の根底に共通点としてあると仮定できよう。Fig.12に示す。

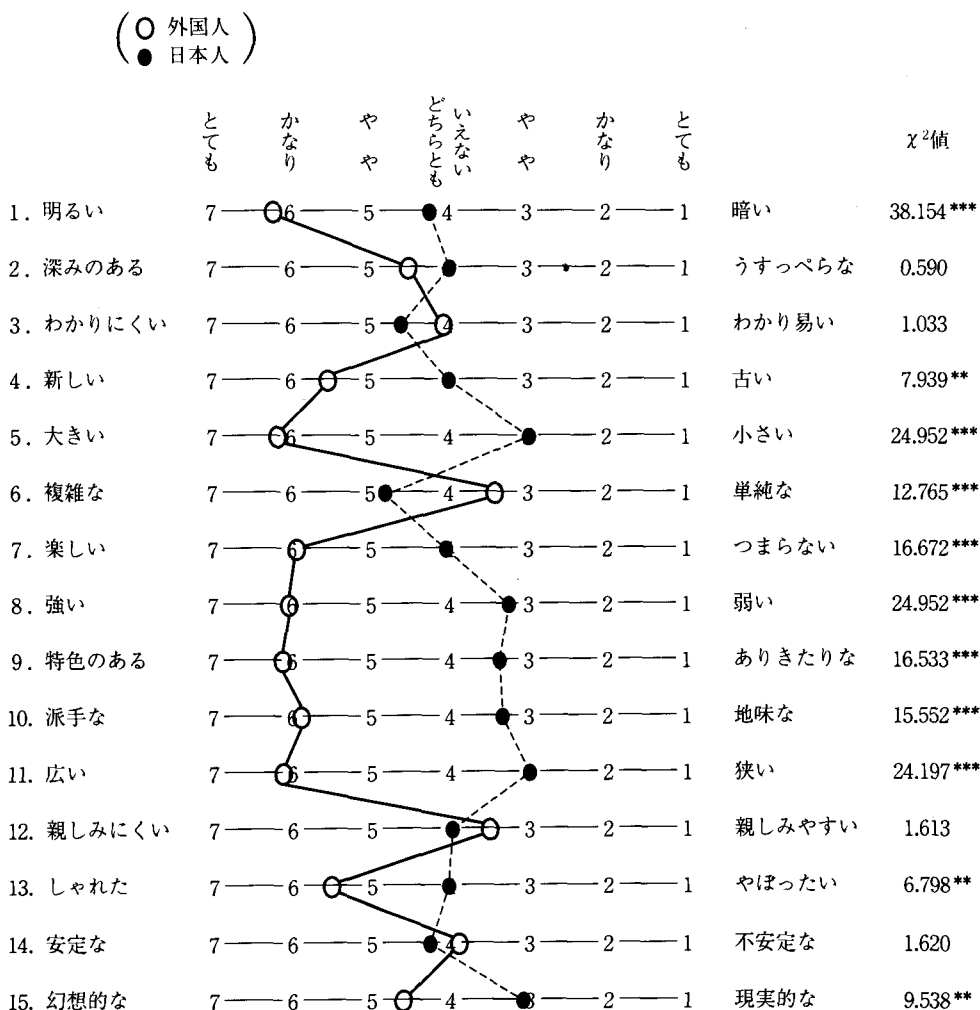


Fig.9 「外国人」と「日本人」についてのイメージの比較

(13) 「異文化」と「外国語」

Fig. 13のとおり、異文化と外国語とのイメージは5尺度において有意差がみられたが、共通する部分も少なくない。その国の言語はその国の文化の重要なファクターのひとつであろう。外国語のイメージが現在の実感に関わっているのは相対的に、異文化のイメージはまさにイメージのなかにあり、民族の伝統性をそのなかに包みこんだものとして把握されていると解釈される。

○要約(まとめに代えて)

大学において海外からの留学生の適応を考えると、留学生向きのカリキュラムやカルチャーショックへの対策といった配慮とともに、留学生を受入れて彼らと接触する日本人大学生の留学生に対するイメージ・あり方の現状を把握しておくという視点も大切であろう。

4年制のH大学は約5000名の日本人学生に対して留学生は30数名である。留学生との交流が低調であると思われることから、留学生に対するイメージをSD法的調査により探ってみた。

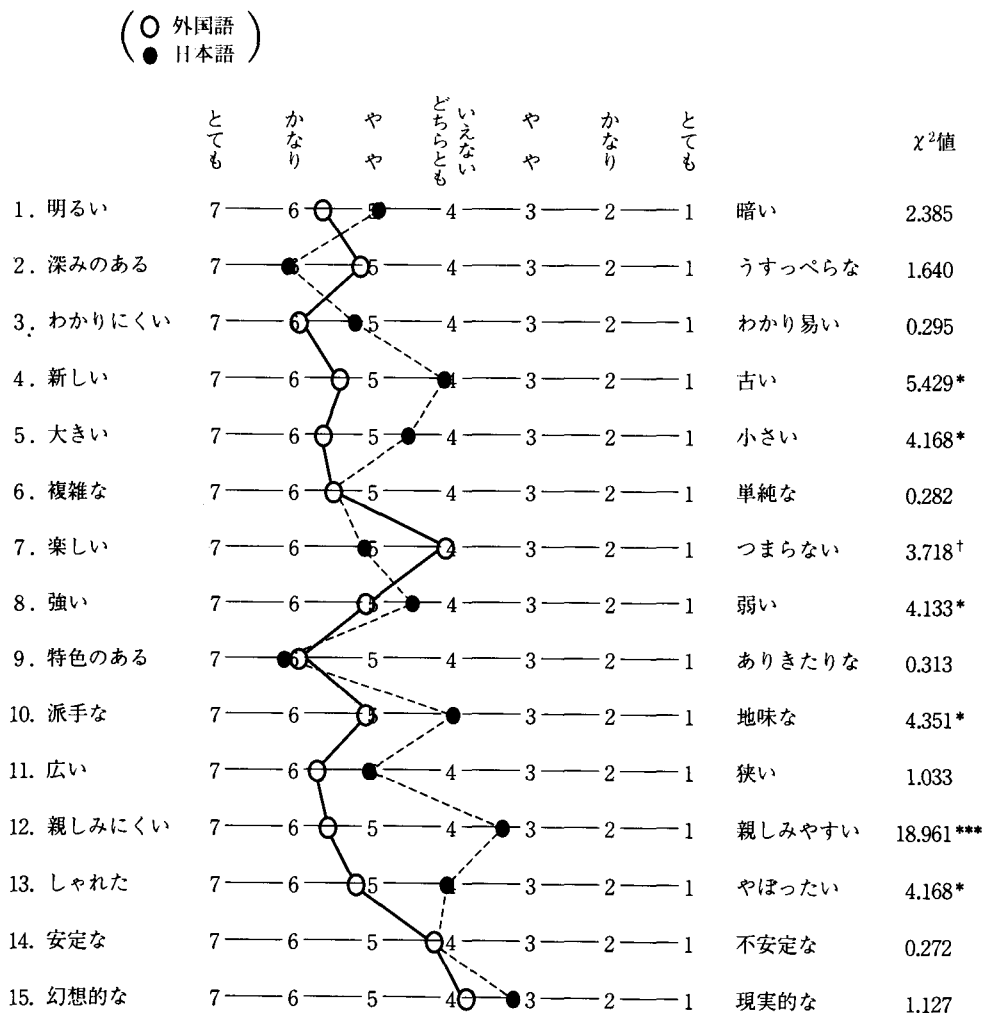


Fig. 10 「外国語」と「日本語」についてのイメージの比較

あわせて外国や異文化についてのイメージ調査も行った。対象はH大学の1, 2年生31名である。回答を求めた項目は、現在の、および理想の、留学生・自己・H大生の他、海外留学、外国人、国際交流、異文化など全16種類である。対称的な形容詞対を両極とする連続線上に7ポイント・スケールとして回答を求めた。

結果、現在の留学生は、日本人大学生から、わかりにくい、親しみにくい存在としてみられているが、特にネガティブなイメージはもたれていなかった。留学生との交流経験や情報量の

少なさからニュートラルな回答傾向が生じていたとも考えられる。また留学生はアジアの国々からの学生であり、米と漢字の文化圏ということもあってか、外国人一般のイメージとは隔っていた。理想像に関しては、自己もH大生も留学生もかなり近似したイメージでとらえられていた。異文化のイメージについては、特色のある、深みのある、幻想的などといった異国情緒を強く含んだイメージとして受取られていた。また異文化のイメージは、国際交流や外国語のイメージと多くの部分で重なりを示した。

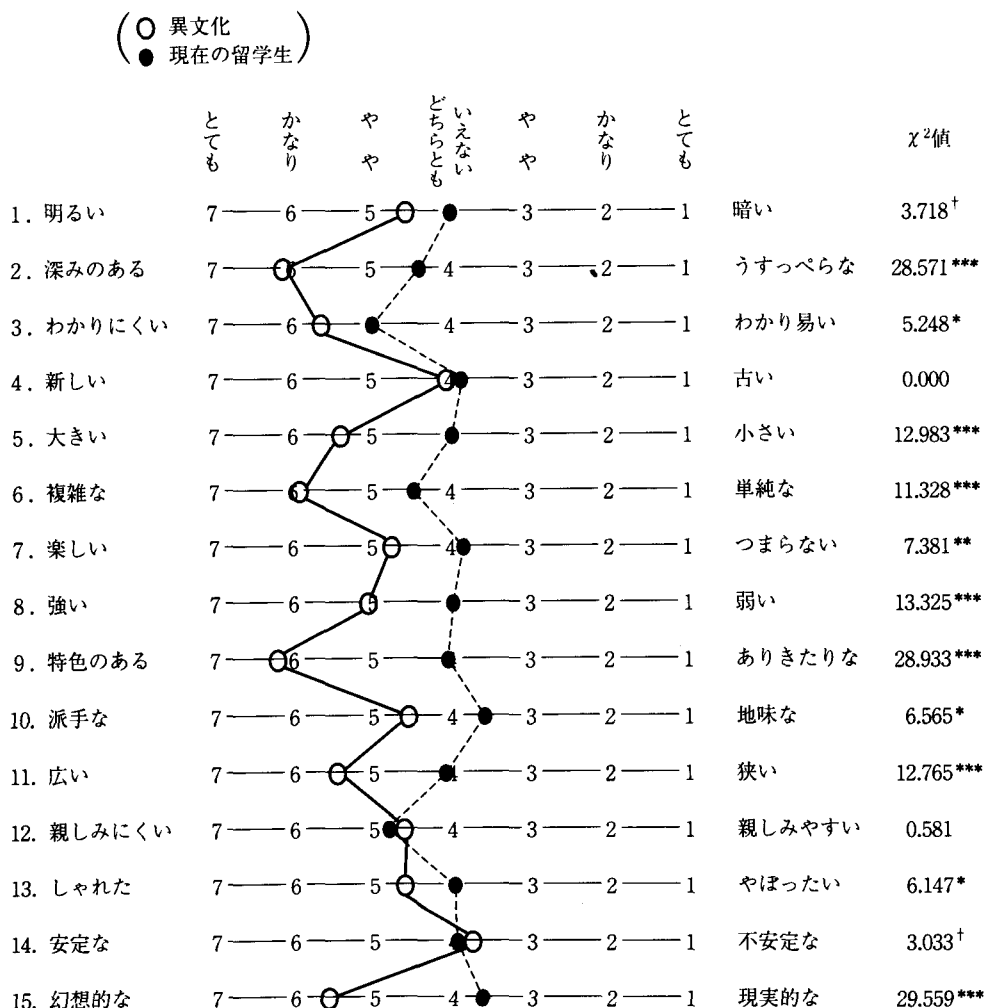


Fig.11 「異文化」と「現在の留学生」についてのイメージの比較

これらの調査全体を通じて、日本人大学生は潜在的には留学生との交流を望んでいるが、現実には疎遠で異質な存在としての接触しかできていない。留学生に対して大学の教科や日本文化への順応の援助をするばかりでなく、日本人大学生に対しても、異文化としての相手国の理解を促進させたり、異文化間のコミュニケーションについての知識・技能を育成するプログラムを準備したり、両側面に対する取組みが必要ではないかと思われる。

参考文献

綾部恒雄編著『外から見た日本人』朝日新聞社、1992年。  
 異文化間教育学会編「在日留学生の異文化接触」『異文化間教育5』アカデミア出版会、1991年。  
 金沢吉伸『異文化とつきあうための心理学』誠信書房、1992年。  
 宮沢秀次他編著『自分でできる心理学』ナカニシヤ出版、1991年。  
 直塚玲子、坂本ナンシー他『Mutual Understand of Different Cultures』大修館書店、1981年。  
 多田洋子『外国人留学生のカルチャー・ショック』南雲堂、1995年。

(1995年12月19日受理)

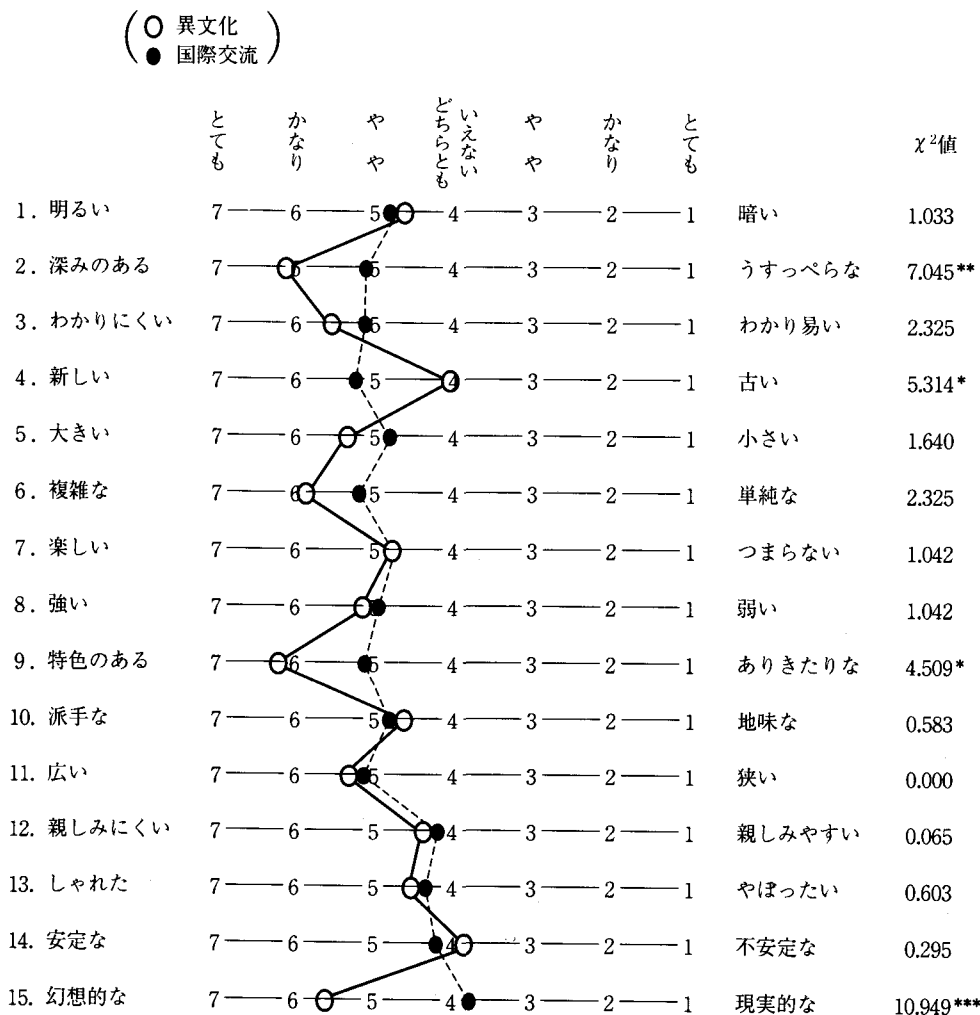


Fig.12 「異文化」と「国際交流」についてのイメージの比較

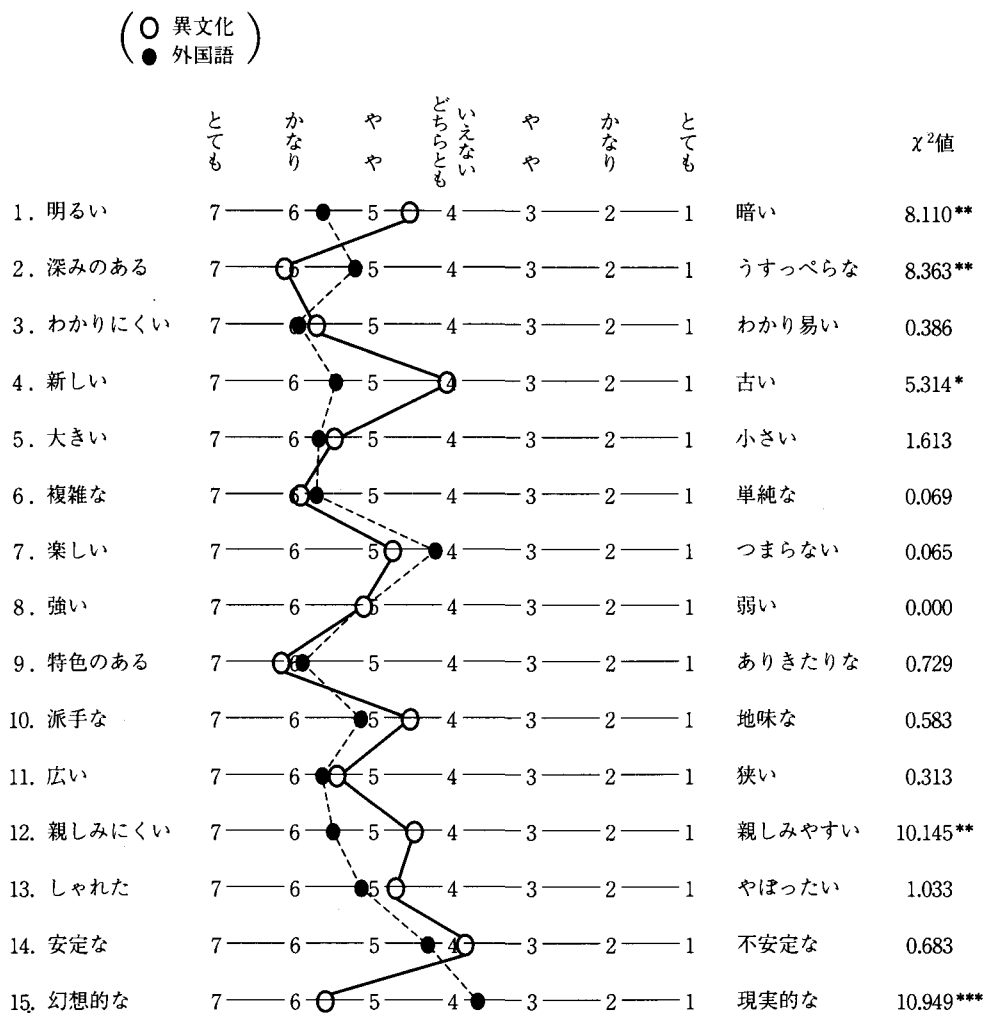


Fig.13 「異文化」と「外国語」についてのイメージの比較